

寄稿

巖谷小波日記 翻刻と注釈

——明治三十八年（五月、八月）——

小波日記研究会

《まえがき》

ここに翻刻する巖谷小波の資料は、明治三十八年「当用日記」の五月一日から八月三十一日までである。翻刻にあたっては、従来と同様、原則として削除された箇所は省き、削除されていない文字はすべて翻刻するように努めた。特記すべき点があれば、各日の末尾に注で示した。

なお、今回の翻刻及び注釈には、本学大学院生（国語国文学専攻）の秋山由佳さん、齋藤花琳さん、武井理紗さんの協力を得た。記して謝意を表したい。

令和元年十一月十五日

猪狩 友一
木村八重子
竹田 修
中川理恵子
（五十音順）

《本文》

明治三十八年 当用日記

五月一日（月） 曇風時々雨

九時出勤 旅順の巻起艸

午後四時帰 途中沢氏を訪ひ 富森氏肖像

夜在宿

〔入〕 * 15,000

依頼

〔注〕 * 15,000…入金元の記載なし。 * 依頼…前行の「富森氏肖像」に続く。

五月二日（火） 晴曇

九時出勤 戦史稿

四時帰途 元園町により 夕食後七時

角田氏 秋聲會に赴く 愚佛氏居合

五月三日（水） 曇夜雨

自本日 靖国神社臨時大祭

九時出勤 戦史稿

四時帰宅

五時 清水谷皆香園 楽水會に赴く

十時帰

〔出〕 楽水會 1,000

五月四日（木） 晴風

午前廣瀬に洋服注文

十二時早稲田出勤 三時半帰途北村氏半部

夜木曜會 浅田氏来合 近日横濱

支社長として移住のよし 十時散

五月五日（金） 晴

九時出勤 半日休暇

午後一時 鳥谷部、長谷川氏らと靖国社

参詣 後 大橋氏端午稲荷祭園遊

會に赴く 四時去て 北村氏稽古

五時帰宅後 再び 紅葉館に向ふ

大隈信常氏送別會

五月六日(土) 曇晴夜雨

九時出勤

午後三時帰

四時より 画葉書品評會 大下、南岳 爽日

及余、久保田 柳川欠席

夕食 後 八時後散

五月七日(日) 雨

午前十時 日下部兄公を訪 金三郎夫婦近に

岡山へ赴任のよし

十時半 魚十より東京座見物

牧の方 野崎村

六時後 去て 父上を訪ふ 九時半帰

(出) 東京座 2,000

五月八日(月) 曇雨

九時出勤 少戦史脱稿

午後四時後帰

六時半 独乙公使館シルレル百年祭に

招かる(其前廬来) 晚餐後フロレンツ氏

講話、其後立食 十一時後帰

(入) 旅順巻 1,000,000

(出) 勇へ 70,000

天溪へ画代 6,000

五月九日(火) 曇雨

九時出勤 少年臨時五光滝脱稿

三時 独乙協會學校シルレル祭にヒ招

五時帰宅

夜木村、兄弟来 夕食後去る

【注】*五光滝：お伽歌劇『五光の滝』は「少年世界」(明治三十八年五月十

五日)掲載。

五月十日(水) 雨

朝*浅井勝(日出校正係)来

九時出勤 喜誕生日起艸 上村氏病氣退館告別ニ来

伊井来菓子持参 四時帰

夜画葉、荒木氏来

(入) 中学俳 3,000

【注】*朝 浅井く来：この行は欄外に記されている。
「太陽」(明治三十八年六月一日)掲載。

*喜劇誕生日：

五月十一日(木) 曇

午前 洋服かり縫

十時 元園町により 十二時早稲田出勤

午後四時 歌舞伎座 若葉會劇評家

芝居見物

忠臣蔵、日蓮辻説法及保名

六時帰途 黒田と青山いろは食事

夜木曜會画葉 題 青

五月十二日(金) 陰晴

九時出勤 木沢氏より野口寧斎今晩死去の報

直ちこれに赴く、十二時辻氏ニより元園町に

赴き 食後二時帰館(勇三、三四を伴)

四時帰途 竹貫氏と 上村氏を訪 今夕出

發 帰阪の故也

夜 太陽誕生日脱稿 西村渚山来

(出) 富森姉餞別 3,000

五月十三日(土) 晴

九時出勤 其前渡邊来

午後二時後 桂舟を訪ひ画注文 野口二よる
六時新橋に 金三郎夫妻岡山赴任を送る
後 田中松太郎氏と富貴亭食事 九時帰
〔入〕少年臨時 63,00

五月十四日(日) 晴

朝愛国婦人記者手島来稿依頼
有本来

午後内川来 選句依頼
一時 元園町により 二時野口氏二赴く 本日葬送
三時出棺(槐南 愛劍 碧室 小波) 棺側) 青山埋葬
五時後帰宅入浴、食後 野口家二赴く
追悼會相談 九時帰

五月十五日(月) 曇夕雨

九時出勤 午後斬髪
午後四時 帰途中与にて手袋コスメ、銀座にて
三二三四帽子求
夜 島村盛助来 柏壁の藤房持参

〔一行あり〕

博文館預金百五十四円余 通帳受取

同負債一切相済み

〔出〕手袋 1,18

帽子 *1,50

【注】*1,50:「」に当たる記号の記載なし。

五月十六日(火) 曇晴

午前 元園町に立よる 後独公使礼二赴き出勤
午後四時後 偕樂園 濱田氏退館送別會
八時後帰る

五月十七日(水) 晴

*富森氏

朝筒井来 中沢氏により肖像画料渡 それより元園
町に右肖像持参 姉上に渡す大喜也
十時出勤

午後四時半 姉上及藤沢氏を新橋停車場に
送る 又 六時 坪谷、角田らの渡韓
を送る 帰途入浴 直にメトロポールホテル
にベルチンスキーの招宴に赴く 大村氏
全席 十一時半帰

【注】*富森氏：欄外に記されている。

五月十八日(木) 朝風雨 午後雨

*中学部の為

朝西村来 大町氏へ紹介 入館の件
午後早稲田欠勤 夕方三二、銈二郎と渋谷まで散歩
夜 木曜會
此際古宇田生雑誌返しに来る

【注】*中学部の為：右欄外に記されている。

五月十九日(金) 朝雷雨後晴

朝福田来 大村氏に紹介 同文館へ運動の為

九時後出勤

午後一時 華族女學校運動會に赴く ベルチンスキー
も来合(前に切符送りし故) 川田夫人等に會

五時半帰

夜画葉

五月二十日(土) 晴*

午前九時出勤

午後一時一寸 原元蔵により 小山學士(山本養子 候補の件)

の件依頼 片岡及森田居合す

二時婦人教育會 ノラの話 渡邊中佐軍事談

五時後 一寸 鳥を訪ひ 去て牛込

青陽楼に赴く 早稲田生静岡人會に招かる

講演一席(女学生風紀談) 九時帰

【注】*晴夜：「夜」に続く文字は記されていない。 *候補：原文の「候」の字は旁のみ。

五月二十一日(日) 曇

午前 *久良岐 西山花葉来 川柳談

正午 父上を訪ひ 一時 北村氏超然會、半部一番

にて去り 平林鳳二氏ニより俳真蹟見され

三宜亭 太古遺跡研究會出品を見

梅川 寧齋氏十日祭に臨む 余發企の一人

會者五十五人(余挨拶)

(出) 十日祭 2、50 九時帰る

【注】*久良岐：この後に文字があるが削除されたとみならず。 *見され：「見せられ」の意か。

五月二十二日(月) 晴

九時出勤(本日より西村渚山出勤) 中与三帽、シャツ求む

四時帰途 皆香園 白人會々者十五名

十時帰 (出) 皆香園 1、30

五月二十三日(火) 晴風

九時出勤 其前福田来 又其前浅井来 水谷ニ介ス

十二時メトロボル に ペルチンスキー氏を訪ふ 共中食

ホフマン夫人(従軍武官の妻)を待ち合せ 共に

四日院大角力見物 四時帰途再び

メトロボルにより ペルチンスキーの為め 錦絵説明
六時半帰

夜 高富上等兵来 不具となり煙艸
行商をなす由

生田来 次で水谷幻花及葉書世界

記者来 画葉貸ス

夜縁日散歩

【注】*高富：「富」は別字の可能性も。

五月二十四日(水) 晴午後雷雨

九時出勤

午後四時帰途 銀座にて煙艸盆求む

夕方六時より 易風會朗読會(誕生日朗読)

逍遙君子息以下 十二名 後(牧の方朗読)

十時散

(出) 煙艸盆 2、40

五月二十五日(木) 晴

午前三時半 盜賊来 恰も余回眺の大喝之

を去らす 被害 勇子中衿、帯、羽織

十二時 早稲田出勤

午後三時後新小川町田氏を訪ふ みか子居合

又島田夫人来合 五時帰宅

夜木曜會 十時散

夕方辻氏 又金大来

【注】*○○○：欄外に記載。圈点か。 *回眺：「回」は別字の可能性も。

五月二十六日(金) 曇雨

午前九時出、桜井(青山小学校長)来 又新聞記

其前

者高信来 小説談筆記

午後三時後西彦に赴く、五時元園町

父上を訪ふ 夕食

夜武藤氏来訪 九時帰宅

【注】*新聞：「聞」は別字の可能性も。

五月二十七日(土) 晴

九時出勤

午後一時 西彦に赴き、浴衣地其他お召等求む

川田氏綾、若宮町夫人、松山夫人来合 又(紹介)

四時青山小学校 父兄懇話會出席

口演 五時帰

五月二十八日(日) 晴 暑

【皇后陛下御誕辰】*

午前来訪 千葉、森鷗州、

小川煙村、浅井禄同義秀

小川食後去る

午後一時 福田と新宿の新居ヲ訪ふ

明後日新婦を迎ふよし 祝金贈る

三時元園町父上訪問 兩三日来

や、元氣衰たまふ

藤井 田中松 居合 又 日下部兄公も来

九時帰

【出】 福田へ 10,000

【注】*森鷗州：未詳。「読売新聞」の記事「竹馬会員俳諧遠足隊」(明治三十五年十一月十三日)に、「深川竹馬会」のメンバーとして「鷗州子」

の名が見える。「よみうり抄」(「読売新聞」明治三十四年十二月二十

三日)によれば、同会は「紅葉門下の俳客が組織せる団体」で、雑誌

「初冠」を発行した。

五月二十九日(月) 晴

九時出勤

午後 竹柴来やかず賀貸ス 東京座

開演の由

五時帰

夜無事 在宿

今朝九時前 砲兵工廠弾丸破裂

の大椿事

又 波艦隊全滅の快報あり

【注】*波艦隊全滅：日本海海戦でバルチック艦隊を破ったことをいう。

五月三十日(火) 晴

九時出勤

午後一時 鳥谷部、長谷川、峯上坪内、石倉氏らと回向院

大角力見物 常陸山會 駒ノ大刀を破る

五時帰

七時半 新宿 福田琴月宅 結婚式に招

かる、村上、和智 及び加藤 小野田同席

十時後帰

五月三十一日(水) 曇

九時出勤 愛国婦人原稿送

四時帰途 父上見舞 食後七時半込

朝日倶楽部 朗読會に赴く 誕生日読合せ

十時後帰

【出】 水へ長唄會費 2,000

黒川文淵立替 10,000

六月一日(木) 陰晴

午前浅井勝来 黒田へ紹介二六社へ運動せしむ

十二時早稲田出勤 二年級一時間 一時後

大下氏を目白坂に訪ふ（太平洋画會拂込） 柳川氏居合す 五時前帰

五時 独公使書記官バロン、グリユナウ来訪
男色と武士道関係の件質問

夜木曜會又 和田英作来恋の伯林さし画依頼

〔入〕 25,000

〔出〕 大下氏太平洋画會 5,000

山内分 2,000

〔注〕 *太平洋画會：「洋」の字は「平」の右側や下に。後からの書き加えであろう。 *恋の伯林：比較的小さく記されている。『伯林土産恋の画葉書』（博文館、明治三十八年十一月）を指すか。 *25,000：入金元の記載なし。「2500」と見える。

六月二日（金） 晴

午前 莊司斬髮 今日店員總て角力見物二つき

編輯員も皆休 即ち木村、竹貫二氏と紅兒會

画展覽見物 後外務省二廬を訪ふ帰宅の由

即自宅に之を訪ふ、中食後 共二東京座

新喜劇見物 五時四谷へ武蔵屋鷹匠

料理夕食 後 北村氏けいこ

〔注〕 *紅兒會：安田鞞彦らの紫紅會に今村紫紅らを加え、明治三十三年に発足した日本画家の研究団体。

六月三日（土） 曇

九時出勤

午後二時 石橋氏と牛込矢来俱樂部に福音

教會花の會に赴く 口演一席

五時 元園町に向ふ 楼上 画葉品評會

西村、西園も来る 十一時前帰

六月四日（日） 曇

午前来訪 黒田 次で永田来 年峰来

午後一時 独乙公使館 独和會紀念園遊會

五時後去て 不忍園内二早稲田有志

祝捷會に臨む 九時帰

六月五日（月） 曇

九時出勤

午後二時 柳原伯を訪ふ *未廣法学士居合

後 和田を訪ふ 五時帰

夜画葉書など

〔注〕 *未廣法学士：末廣重雄（末広鉄腸の長男）か。

六月六日（火） 雨曇

九時出勤 少戦第十二奉天卷起艸

午後四時帰

夜北村けいこ、木沢ニよる不在 清風亭俗曲

研究會に赴く 歌沢 後朗読など 十時帰

〔注〕 *少戦第十二奉天卷：巖谷小波編『少年日露戦史』第十二編（奉天の卷上）（明治三十八年七月刊）。

六月七日（水） 晴

九時出勤 少戦艸

午後四時半帰途 北村氏けいこ（勇居合）後

四谷蓬萊屋食事 山沢氏に落合ふ

六時東儀方易風會打合に赴く 十時帰

〔出〕 蓬萊屋 1,300

六月八日（木） 晴

午前家族を伴ひ柴田にて撮影 十時帰

恰も坪内氏来訪 父上揮毫の礼也
午後二時 元園町を訪ふ 四時半帰
夜木曜會 画葉會 題茶 余二等
大橋光吉氏来合す

六月九日(金) 晴

九時出勤 戦史艸ス
午後四時 元園町ニより(其前メトロポール
にベルチンスキーを訪ひ 独公使にて名刺礼)
夕食後一寸野口氏ニより詩話原稿受取
北村氏打合せ會 十時帰

六月十日(土) 曇夜雨

九時出勤 戦史艸
四時半 真砂座稲田屋より見物 同好観劇會
風葉作 金色夜叉
十一時帰
〔出〕真砂座 1、30

六月十一日(日) 入梅 雨

午前来訪 年峰 国学院 京都高等小学
小杵某、
教員辻□氏ら
午後一時より北村氏謡曲會
七騎落シテ 阿漕ワキ 及 独吟勸進帳
八時帰
〔出〕北村氏會 5、00

六月十二日(月) 曇

朝黒田来 姉婿死去
午前鹿子木氏を南町の宅ニ訪ふ 十一時出勤

午後五時 富貴亭に赴く 浅井忠氏
歓迎會々者 塚本、箕作、田中、和田、岡田、
米斎、金仙、及美の部 十時帰
帰途より発熱

〔入〕戦史半 50、00
〔出〕富貴亭 2、50

貯金 50、00
黒田へ貸 15、00
又贈 5、00
観角費 7、80
同常陸會 2、00

〔注〕*朝黒田来 姉婿死去…この行は欄外に記されている。

六月十三日(火) 朝曇 午後晴 暑

今朝不快 横臥 朝熱 37.6、夕 38.2、夕 38.6
*其前生田来 女学立替10渡 おみ代来
午後 黒田母来
木沢氏来診 腸間熱
夜 辻姉上来

終日 便通凡そ十余回

〔出〕生田へ 10、00
勇へ 20、00

〔注〕*其前…この直前で「午後 黒田」と書きかけ削除している。

六月十四日(水) 小雨風 午後晴 暑

朝 37.5 昼上 夕 7.8 夜入浴
西村ニ戦史校正托ス
午後 木沢来診
夕方西村来 中学口画説経*

【注】*説経：「説」「経」とも別字の可能性も。

六月十五日(木) 晴

朝木村来 秋香へ戦史画注文の件依頼

本日復平熱 但し便通途絶

午後 勇子三二 元園町に赴く

竹貫、子息を伴ひ来

久保田米齋来る 戸籍届出捺印の件

【二行あき】

本日博文館十八周年祝筵 依例富士見軒

但し之を辞す

夜 入浴

六月十六日(金) 曇雨

ほゞ快癒

日露戦史執筆(床中ニテ) 村田氏来

夜木曜會

武田来

金井雄氏十四日死去の報あり 香奠及弔詞

【出】金井香典 2,000

六月十七日(土) 終日雨

二赴く

午前十時 木沢氏 被診 帰途元園町

中食後 一時半 婦人教育會

(幼稚園)に赴き 口演(婦人の意地)

佐々木少佐 海戦談 五時帰

夜西村来

六月十八日(日) 曇午後雨

午前 肥田石山氏来、永富来

角田浩々来 中食後二時去 一睡

長松男来 報知社佐瀬来画葉審査の件

夜西村来 喜劇

エルンスト、のバンネルマン読ム*

【注】*読ム：「ム」と読んだ字は小さく、判読困難。

六月十九日(月) 雨

自本日 出勤

午後二時 報知社二より 画葉審査

總 五百八十組(三枚宛) 四時後帰

夜 竹貫来

六月二十日(火) 雨

九時出勤 前 元園町兄上及父上を訪ふ

午後三時半 東京座見物 水口及石橋

柳川、竹貫、西村

狂言 鳥居強右エ門、毛剃 及 やかす髯

打出後 高麗屋、勘五郎、芳三郎に會す

(魚十樓上) 十二時帰

【入】中学 20,000

【出】魚十、及茶男女 2,000

活東合力 2,000

六月二十一日(水) 晴風

朝高橋立吉来

九時出で西花園に松盆栽求 柳原伯祝品とし

て贈らしむ 日比谷松本により 伯林會注文

十時出勤

*三時

【入】日本家庭 4,000

【出】松録 4,000

勇へ 4,000
莊司 75

【注】*三時…この日の記事は、ここで終わっている。

六月二十二日(木) 晴 曇夕雨

午前在宿

十時 元園町、父上昨來の容態稍面白かざる観あり
*上村賣劍來合 又 片岡けい來合

二時報知新聞社 画葉書審査會に赴く

黒田、小山、井手、島田及余五名立會開札

後協議の上差等を定む 夕餐をヒ饗八時帰

夜木曜會、和田氏來 恋の伯林さし画

一部持參、大岡竜男來合

【注】*晴 曇夕雨：天氣欄内に「晴」とあり、欄外に右から「曇夕」、「晴」の上に「雨」と記す。先に「晴」と書き、後で「曇夕雨」と書き加えたか。文字の順序は不明。 *上村賣劍：漢詩人(二八六六〜一九四六)。

六月二十三日(金) 雨夕晴

九時出勤 卷頭艸

午後三時 日本橋俱樂部 白人會に臨む 會者

十時 前帰 十名

(出) 白人會 1,500

六月二十四日(土) 晴

午前元園町による

十一時後 三越呉服店に招かる 中形新柄披露、中食

ヒ饗 新聞記者連二十名斗、後岡鬼太郎氏に

導かれ 石橋、幸堂、伊坂 氏らと 常盤木

俱樂部 落語研究會に赴く 五時帰

夜大島宝水來 画葉書談

(出) 父上御見舞 100,000

【注】*岡鬼太郎：劇評家、劇作家、小説家(一八七二〜一九四三)。 *大島宝水：俳人(一八八〇〜一九七一)。

六月二十五日(日) 曇

今朝 森山善三郎退病院來宿、土屋叔父丹沢來

小川煙村來

十時番町教會 子供の日の為 お伽噺、十二時元園町に赴く

千葉と 目白大下氏春鳥會に赴く 一週年

紀念 画葉會 題五月雨、竹、真野、木村、

柳川、小林珠郎 山縣文夫ら居合す 夕食後

帰宅 九時

【注】*大下氏春鳥會：大下氏は、水彩画家の大下藤次郎(一八七〇〜一九一〇)。春鳥會は大下が設立した水彩画研究団体。この年七月、雑誌「みづゑ」を創刊。

六月二十六日(月) 雨午後晴

九時出勤

午後四時帰

五時後 紅葉館 高田早苗氏婦朝歓迎會

早稲田講師ら六十余名 九時帰

(出) 紅葉館 2,500

六月二十七日(火) 曇

*東洋婦人協會時任女來 九月口演の件

九時出勤 途に報知社画葉書展覽を見る

午後四時後 都新聞へ遅塚を訪不在即ち

外務省に 廬を誘ひ 共に日比谷公園松本

樓に赴く 廿世紀伯林會 々者四十

五六名 余、廬、松井、服部 四人幹事

散後 津輕氏に導かれ 和田、北里、青木らと
日本倶楽部に赴き玉遊 十一時帰

〔出〕 伯林會 90

〔注〕 *東洋婦人協會時任女來 九月口演の件：この行は右欄外に記されている。「東洋婦人協會」は明治三十六年創立の東洋婦人会か。

六月二十八日(水) 曇雨

欠勤

朝福田来 森山同行

十時より 午後四時まで元園町にあり 此間早稲田
大學答案取調

六月二十九日(木) 曇晴

九時出勤

午後二時後 武内による、後 大橋二寸より祝辞
男子出産

北村けいこ、 六時帰

夜木曜會、

今夕十時 森山善三郎帰省

〔出〕 北村 2,00

六月三十日(金) 曇雨

九時出勤

午後四時後北村けいこ、後 元園町 夕食
夜十時帰

七月一日(土) 曇雨

九時出勤 世界お伽72冊

午後三時後 千葉を下宿に訪ふ 押川、小島、小峰

春生 西岡等來會、五時東京座

土肥、大岡竜、東儀、千葉、小峰、春生、西岡ら

同見物 九時半はね 十一時前帰 黒田

〔入〕 22,000

〔出〕 魚十 5,000

〔注〕 *22,000：入金元の記載なし。

七月二日(日) 曇

午前來訪

鈴木庄司、学生總代榎、永富、岡田紹介海智
谷岡之進

某(日本の少女の件) 小森松風及 浅井祿

午後 一睡

文淵堂金尾来 喜劇集之件

夕方より元園町見舞 十時帰

〔出〕 生田へ 8,000

七月三日(月) 晴

朝黒田来

九時出勤 世伽七十三冊ス

夜在宿 冬生来 夕食後練兵所散歩

〔出〕 生田二 8,000

〔注〕 *朝黒田来：この行は右欄外に記されている。

七月四日(火) 陰晴

九時出勤 世伽七十三稿了

四時帰

夕食後 勇及三四と黒田方に赴く 八時帰

夜 廣津氏來ル

七月五日(水) 晴雨

九時出勤前 元園町による 十時後出勤

午後四時帰

入浴後 北村けいこ 後清風亭 俗曲研究会に臨む

*河東節及 舞踏、十時帰

〔出〕 俗曲研究会 3、50

〔注〕 *河東節：浄瑠璃の流派の一つ。享保年間に、十寸見河東（ますみかとう）が江戸で創始。

七月六日（木） 晴

朝土肥氏妹葬送に會す（寅葉師） 後北村けいこ

十一時帰

午後 三省堂字書原稿十枚送る

金尾文淵堂主人来 喜劇七種原稿渡す

夜木曜會

〔二行あき〕

今朝平林鳳二氏 其角、巢兆及文晁幅持參

〔出〕 土肥香奠 2、00

〔注〕 *金尾文淵堂主人：金尾種次郎（一八七九～一九四七）。金尾文淵堂

は、この年（明治三十八年）に大阪から東京に移った。 *喜劇七種

：巖谷小波『小波喜劇七草』は、金尾文淵堂から明治三十九年十月に

刊行された。

七月七日（金） 晴

朝一睡 十一時出勤

午後四時 帰途元園町により 夕食後北村氏

打合せ會 三番 十時後帰

〔入〕 奉天巻 1000、000

〔出〕 勇へ 500、000

母上へ 200、000

加藤教仙代

〔注〕 *卷：この文字は「節」に見える。

*教仙代：意味不明。「教」は別字の可能性も。

七月八日（土） 晴

朝九時出勤 其前廣瀬夏服注文

午後四時帰る

五時後 遅塚来 夕食 竹柴来九時去る

〔入〕 生田より 8、000

〔出〕 生田より勇へ 8、000

七月九日（日） 晴

午前來訪 小野又、西村彙藏 不破空郎、小川煙村、久

保田金仙 神谷邦淑、金仙に世伽注文

午後 鈴木鼓村来

一時超然會

加茂 土蜘蛛 安達原 野宮 三井寺

独吟 水無月被、 七時帰入浴

觀音塚に散歩 求花

〔注〕 *空郎：「空」は別字の可能性も。

創始者（一八七五～一九三二）。 *鈴木鼓村：箏曲家。京極流の

七月十日（月） 晴急雨二回

九時出勤 女學艸

帰途三時 三越呉服店二より 浴衣、襟飾

など求む 濱田、久保田に會ふ、又銀座にて

白靴求む 五時帰

夜元園町に赴 父上今朝来風邪の

由にて 咽喉部に痰纏ふ 悪兆なり 言語不判

二階にて 冬、春、尾村らと謡曲 十時帰

〔入〕 永迫より 300、000

圖書會社唱歌分

〔出〕 三越夏物 7、000

白靴 4、000

七月十一日(火) 雨陰曇

九時出勤 太陽雜録艸ス

午後五時前帰

夜 平林鳳二來 巢兆、文晁二幅ヒ勸

生田も来合す 短冊、雅帖など認む

先是 勇を元園町に遣はし中元持參

本日

帰来報曰く 父上容態不面白と、即ち明日は

木沢を拉し来り、警戒せんと思ふ、折しも時に

九時二十分 元園町より急使あり 父上危篤ト

(平林氏匆匆去ル) 直に之に赴くに遂に不及

当時春、冬らも不在、日下部兄上ハ出張中帰京延引十二時帰

茫然久之耳、已にして辻氏来藤井氏も来る

共に後事を談じ徹宵す (長松氏来り助力ス)

七月十二日(水) 曇

朝来聞計来用者頻々たり 然れども階位^{*}の件にて公報

を發せず

午後五時に至り辞令来る 父上従三位勲二等

を賜はる

夜に入り納棺

【注】*階：原文の文字は、阜偏〔階〕と偏は同じに「桀」。

七月十三日(木) 晴 炎暑漸催

今朝諸新聞に廣告出づ 来用者如織

今夕柩を送りて代々幡村火葬場に至り

睇毗に附す 兄上、春、冬、余、辻氏 西村氏

池田金太郎、池田忠恕ら同行

今正午 郷里より富森姉上、西村氏と共に上京せらる

今日父上坐石録の中より遺言書を發見

又辞世曰ク

風月江山結夙縁 不希求佛不希仙

昭朝恩沢一何厚 遊戯人間七十年

〔出〕 拝奠 50,000

【注】*睇毗：原文のまま。「荼毘」であらう。

七月十四日(金) 晴

今朝母上、春生 其他婦人連 火葬場に赴き収骨し

来る

〔入〕 婦教育會 5,000

【注】*婦教育會：「婦人教育會」の略記であらう。

七月十五日(土) 晴

今朝九時 勅使来向、祭資五百円及白絹二匹

下賜せらる

午後一時出棺 青山斎場に佛式葬儀

来會葬者 千名に及ぶ

葬後一寸帰途 洗汗一睡

夕方再び元園町に赴く 十時帰る

七月十六日(日) 陰晴

次父上辞世作韻

親子元非二世縁 平生私析寿如仙

孟蘭盆節無常速 大捷年成大凶年

陰たのむ 岩は倒れて 夏の雨

墨薫る 昨日の床を 蓮の花

出棺当日窓前の百合開く

百合咲くや是さへ面あげあへず

十時より勇と共に元園町に赴く 夜に入り帰宅

【注】*次父上辞世作韻：父の辞世の詩(七月十三日記載)を承け、同じ「韻」で作詩したとの意であらう。 *墨：原文の文字は「黒」に見え

る。

七月十七日(月) 曇

九時元園町に赴く 霍田空也来甲、
午後四時 成満寺僧来読経 按摩
初七日速夜 通夜、松月堂、大矢米年
文苗、藤井 氏ら、
暁四時半頃より一睡

七月十八日(火) 晴

父上初七日
九時成満寺参詣 拝香、十一時青山へ帰る
午後睡眠 四時洋服かり縫
五時元園町に赴く 初七日小宴 西岡、日下部
長松、天土、森ノ女達、横田氏を招く 別席
勢多、辻真茂、藤井、青木義教全文苗、西村等
十一時帰宅

七月十九日(水) 晴

九時より元園町に赴く
午後四時半帰る
夜 竹貫氏来る

七月二十日(木) 曇夜雨 入土用*

午前 画を製り桂舟に届ける(竹内氏に贈る為也)
十時前元園町二赴く 二階にて三省堂字彙編む
午後 南岳、千葉来 南岳に日進艦画葉書
を注文す
午後勇、三一来
夕食後、九時帰宅
〔入〕明治音楽會謝儀 5,000

〔出〕勇へ 5,000

〔注〕*入土用…上部欄外に記されている。

七月二十一日(金) 晴 土用に入りてより涼気催す*

午前より 元園町に赴く
午後四時帰る

〔注〕*土用に入りてより涼気催す…上部欄外に記されている。

七月二十二日(土) 陰晴

朝 電話にて元園町に招かる、安達、日下部兄上、
永田及春生らと 整理相談及
後事を談す
夜に入り 帰宅

〔注〕*整理相談及…この部分、文字の間隔を開けて記されている。

七月二十三日(日) 陰晴

午前来訪 不破、小川煙(及二弟) 阿部秀典ら
正午後元園町に赴く 父上遺書遺墨整理
夕食後兄上と謡曲 日下部翁来 九時帰
青木磐雄と共に帰る

〔注〕*正午元園町に赴く 父上遺書遺墨整理…この行は日記帳に印刷され
た野線の二行分を使い、そのほぼ中央(線の上)に記されている。

七月二十四日(月) 曇

*今日より出勤
九時出勤 少年巻頭冊
三時 元園町に赴く 本日父上二七日速夜
正午 出入商工を招き 又 夕方より
木曜會員其他 堀、横田、秋浦 竹内
筒井氏らを招き斎宴 十時散
勇も手傳ひに出づ

【注】*今日より出勤…この部分、右側欄外に記されている。

七月二十五日(火) 曇

九時出勤 中學の為(小簾の陰艸ス)

五時帰 入浴後 元園町に赴く

今夕十時 西村氏 富森姉上と共に西帰

之を新橋に送る 十時半帰

〔行あき〕

今日米大統領息女及同陸軍卿来京 歡迎頗盛

【注】*同陸軍卿：ウイリアム・タフト陸軍長官。

七月二十六日(水) 曇夜雨

九時後出勤 日露戦史奉天の下起艸

午後五時帰

夜大岡育造来 中央三色版画工の件相談及團珍改良

の件

【注】*日露戦史奉天の下：巖谷小波編『少年日露戦史』第十三編(奉天の

卷 下)(明治三十八年八月刊)。*中央：「中央新聞」であろう。

*團珍：風刺雑誌「団団珍聞」であろう。

七月二十七日(木) 曇晴

午前齋藤松洲来、文淵堂出版物の件 食後去る

午後二時元園町に赴く 夕食後帰

夜木曜會 画葉題七、余一等

廬来訪久我委托七円持参 又武林髻雄来

〔出〕勇へ写真代 10,000

【注】*齋藤松洲：日本画家(一八七〇?)。

七月二十八日(金) 曇

今朝来腹痛 下痢 即ち欠勤

午後 西村久米蔵 来訪

終日 便通十回

〔入〕早稲田 30,000

〔出〕勇へ 30,000

七月二十九日(土) 晴

朝来 發熱 木沢氏二電話

午後 木佐を博文館に遣はし 俸給、稿料受取

夕方木沢来 大腸かたるの由

終日 便通十八回

〔入〕稿太陽女学 120,000

〔出〕勇へ 19,000

120,000

【注】*120,000…入金元の記載なし。

七月三十日(日) 晴

静養、但し熱氣退く

午前 北里来訪

午後 木村来訪

夕方三一を携 花火求ム

便通三回

七月三十一日(月) 雨

朝 木沢氏に赴被診 帰途元園町立よる

午後五時帰

文淵堂金尾氏来 喜劇七艸稿料150持参

夜 竹貫来又 西村来

〔入〕文淵堂より 150,000

〔出〕勇へ渡 150,000

八月一日(火) 晴

九時出勤 戦史起艸

午後四時帰 途斬髪

夜在宿

(入) 20,000*

(出) 弁当 2,000

【注】*戦史起艸：巖谷小波編『少年日露戦史』「第十三編（奉天の巻 下）」（明治三十八年八月刊）か。八月九日の記に「日露戦史十三脱稿」とある。
*20,000：入金元の記載なし。

八月二日（水）曇

朝木戸、福田、渡邊修二郎来 又柳原来

十時後出勤 途ニ 共済生命保険社ニ

より 父上 保険金落手 元園町持参

午後四時後 帰途元園町に赴く 夜大江

石版所 西川 を招き、父上絶筆印刷注文

夜兄上及辻氏ら来 十時帰

【注】*共済生命保険社：共済生命保険株式会社。安田善次郎が明治十三年に共済生命五百名社として創立。のちの安田生命。

八月三日（木）曇 涼

九時出勤 戦史艸 二時帰

三時堀江来 夕食、夜木曜會

今朝 柳原氏より 小田切房子への贈品と托

午後恰も小田切母来即ち之を渡す

今日帰途靴直し受取

(出) 靴直代 1,000

八月四日（金）小雨 涼

九時前出勤 後 富岡永洗氏昨日死去につき

悔みに行く 十一時帰館 四時帰

夜 在宿

平林来 巢兆及蕪村額求、宗因と蓼太、三馬

と交換 十時去る

(出) 巢兆蕪村 15,000

八月五日（土）晴

九時出勤 少年臨時白玉野艸ス

午後四時 帰途 品川停車場前に食事

永田氏の帰郷を送る 六時十一分發

夕方帰宅 入浴

(出) 夕食 、80

八月六日（日）曇 南風

午前 内川桂雨来 俳稿点依頼

十一時 南二丁目 玉窓寺、永洗氏葬儀

に臨む 十二時半 石橋氏を伴ひ食事

三時頃 共に出で 余は 元園町に赴く

長松男来訪 大江へ石版注文

夕食後 藤井、日下部兄公らと雑談

辻氏も来る 今夕登代 帰水

〔行あき〕

本日空也へ宗因の軸を贈る

【注】*帰水：「水口に帰る」の意か。

八月七日（月）晴 自本日暑

九時出勤 少年臨時白玉野

脱稿 堀江来館

午後四時帰る

夜 婦人画報 枝元来 写真貸ス

八月八日（火）曇 暑

九時出勤 戦史艸

四時帰途 有明館に堀江を訪ふ

夕食、安藤及他一人居合
九時帰る

八月九日(水) 晴風 暑

八時半出勤 日露戦史十三脱稿

四時帰

夜元園町訪問 日下部翁来合

十時帰

勇、本日共愛病院被診 胃病のよし

八月十日(木) 晴 暑

九時出勤

三時帰途田屋ニシヤツ数枚求

夜木曜會 絵葉書「八」余一等

十時散

今日國峰より父上靈前に寒山拾得

の一幅と贈

〔入〕 湖山より 15,000

中学 17,000

〔出〕 田屋ニテ 8,000

八月十一日(金) 晴

九時出勤

午後四時帰

夕食後 勇、三一、三四らと元園町に赴ク 九時帰

八月十二日(土) 晴

九時出勤 女学艸

午後三時 岸上氏と 資生堂アイスクリーム後

久保田金仙氏へ悔みに行く 細君死去 妊娠中

夜 洗鱗束 お伽さし画注文 友常来

又 谷村伴雀来る^目早稲田専門部生たり

〔入〕 少年臨時 60,000

〔出〕 煙艸 50

アイス 50

勇へ 100,000

博文社預金 300,000

金仙香 2,000

〔注〕*谷村伴雀：巖谷小波『日本お宮物語』（六合館、明治四十五年）の

「凡例」に、「巻尾に附した『祭神列伝』は、友人谷村伴鶴君を煩はし

たものである。蓋し君は此間神官試験を受けて、已に学正に及第した

人である。又適当な執筆者ではあるまいか」とある。*金仙香：久

保田金仙への香奠の意か。

八月十三日(日) 曇時々雨 暑

朝 生田来 稿料立替

八時後 角田氏を訪ふ 北京土産受取 大橋

江草二氏来合 帰途一寸 木村小舟を訪ひ

トンボ標本依頼 後元園町に赴ク

小舟氏元園町へ標本持参

午後 冬生と囲碁、辻氏及田原萬米来

三時帰

四時半青山 久保田葬儀に會す

夜 中沢氏来

〔出〕 生田立替 10,000

〔注〕*生田立替 10,000：出納の「入」欄にも同内容の記述が見える

が、削除されたと見なす。

八月十四日(月) 雨 夕晴

午前出勤の途 丸善ニより 書籍、インキ、紙等求

午後四時帰途カバン求

夜 早稲田師範部 有馬芙蓉来

又 婦人画報速記者来 談話筆記

〔出〕カバン 3、90

〔注〕*有馬芙蓉：八月二十九日の記には「有生芙蓉」とある。

八月十五日（火） 雨曇

九時出勤 世伽第七十四冊

四時帰宅

夜 木村来少年書院の件

〔注〕*世伽第七十四：『世わ情（世界お伽噺第七十四編）』であろう。

*少年書院の件：木村小舟による出版社設立の話か。巖谷小波『お伽牛

若丸』は、発行者「木村定二郎」（小舟の本名）、発行所「少年書院」

として、明治四十二年七月に刊行されている。

八月十六日（水） 曇

九時出勤 世伽第七十五冊

堀江来館 稿料半送

四時帰

夕方三二と元園町行

〔入〕堀江より 10、00

〔注〕*世伽第七十五：『変身術（世界お伽噺第七十五編）』であろう。

八月十七日（木） 風雨夕晴

終日在宿 三省堂原稿送る

夜木曜會

八月十八日（金） 晴 夕方雨来

九時出勤

四時帰途斬髪

夜 元園町 十時後帰

〔出〕斬髪 油 1、15

車代 3、30

八月十九日（土） 曇 涼

午前朝早く 福田来又 天溪紹介 天野隆亮来 出雲

の人 小學教員

十二時半發 向横須賀

同行、竹冷、南岳、望東、麦人、霧人、柴兮、

春浪、春汀等、

二時横須賀着 直に壹岐艦（ニコラス第一世）

見物 高橋氏案内 後 海軍工廠參觀

六時天津勝男館 群口會俳句大會に

臨む 夜に入り俳句 十二時後就床

〔出〕横須賀費 2、00

〔注〕*壹岐艦：もとロシアの軍艦「インペラートル・ニコライ一世」で

あったが、日露戦争中に日本海海戦で捕獲され、日本艦隊に編入、「壹

岐」と命名された。

八月二十日（日） 小雨

午前画葉書など

十時後 窪田氏案内にて 不渡氏を訪ふ 竹冷氏も共也

中食と饗 二時一寸窪田氏により二時五十分發

にて帰京 五時後 新橋着、壺屋食事

七時帰宅

八月二十一日（月） 曇小雨

九時出勤 中學俳句選

午後三時後 元園町に赴く 夕食

関屋親次氏青年會事業にて渡清の由にて

元園町に來合 今夕直に帰水

八月二十二日（火） 小雨曇

欠勤

午前黒田病氣見舞

午後一時元園町ニより 四時上野梅川、大橋光吉氏招待 葉書會小宴に臨む 募集葉書選
十時帰る

八月二十三日(水) 雨

九時出勤 少年巻頭艸
午後四時帰

隆文館艸村代川村英三来「女と家」の件

【注】*女と家：明治三十九年一月、隆文館から巖谷小波「家と女」が刊行されている。

八月二十四日(木) 曇

欠、三省堂字彙原稿送る

午後元園町に赴き、道具整理飾付

夜木曜會 生田、西村 二人のみ

八月二十五日(金) 雨

九時一寸元園町により 出勤

午後四時帰る

夜 福田、塚原洪柿来る 文士団結會組織

談あり

八月二十六日(土) 雨曇

*欠勤

午前より元園町に赴く 本日午後調度品

競賣 来者二十名斗り 武内、岡田、木沢

宮川氏らも同席 夜に入り結局

余買入約五十円

【出】本家道具代 50,000

【注】*欠勤：右側欄外に記されている。

八月二十七日(日) 曇 夕方雷雨

午前内川、正木某を伴ひ画葉帖を示す

小川煙村来

木村氏来三二を伴ひ神田邊電車行 十二時帰

共中食、午後元園町に赴く

夕食後 帰宅

勇後より

【注】*十二時：原文「二」の字が読みにくい。「十二」を「十二」に書き換えたと見なす。

八月二十八日(月) 曇

九時出勤

父上

午後二時 元園町に赴く 七々日連夜

勇、三一、三四も同参拝 青木、渡邊来合

夜 日下部翁、勢多、辻氏ら来合

十時帰

八月二十九日(火) 曇

父上 七々日につき欠勤

早朝有生芙蓉来、次で渡邊来

十時勇も共に 浄満寺参詣、母上兄上春生

真ち姉及和子同席

午後二時後 南町邊散歩

三時後冬生来 夕食後去

鹿塩来 昔噺画葉出来 又 廬来

【入】女学 15,000

【注】*有生芙蓉：八月十四日の記には「有馬芙蓉」とある。

八月三十日(水) 曇

朝福田来 大島宝水来 俳句題画葉書依

頼さる

九時後出勤

四時帰

夜元園町に赴く

〔入〕

戦史十四 120,000*

〔出〕 冬生分元園町へ

100,000
20,000

本町諸拂

4,000

【注】*画葉書：「画」の字は、右側に書き加えられている。
00…入金元の記載なし。

*120、

八月三十一日(木) 晴

【東宮御誕辰】

本日忌明 回礼

永田町

午前 青山、麻布、芝、京橋方面

和田、廣津、柳原(夫人にも) 尾崎、肥田、

大岡氏に面會 元園町中食

午後 番町牛込方面回礼 廬、

長松夫人、武内、川田豊吉(夫人) 大村氏

ら面會 大村より書籍借入

夜木曜會 大岡竜男来 大岡氏より

所贈 蕪村菊一軸

〔出〕 生田中学立替

8,000